2022 年度 福祉助成金（研究助成）完了報告書 提出用

公益財団法人 橋本財団
理事長 橋本 俊明 様

2022 年 11月 20日

ふりがな	しゅうじつだいがく			
大学 研究機関名	就実大学			
代表者名	役職名	准教授	氏名	森口清美
連絡先	住所	703-8516 岡山市中区西川原 1 丁目 6 番 1 号		
	TEL	086-271-8111		
	E-mail	moriguchi@shujitsu.ac.jp		
	URL			
助成額	800000 円			
研究要旨	文部科学省はがん対策推進計画の中で、がんに対する正しい知識と認識を目指したがん教育を掲げ、平成 26 年度から小中学校のモデル校で実施しているが、内容は、大人のがん予防に着目して生活習慣を見直すものが多く、がん検診の啓蒙活動も行っている。しかし小児がんは生活習慣病と関係なく、がんの予防という観点からは説明できないため、小児がんを含めたがん教育を実施している学校はほとんど見受けられない。 **今回、小児がんに着目したがん教育支援ツール（動画）を作成した。**動画を視聴した生徒、教員、周囲の保護者が小児がんの病気や支援、治療を理解できることを目的に、**小児がん経験者の小学生・中学生・高校生・大学生の 4 名と主治医 2 名、保護者 2 名が出演した。**内容は、子ども本人は、してもらった支援、してもらいたかった支援や闘病への思いを話した。また、主治医や保護者は、がんの子どもに対して行った支援や治療、思いを話した。動画を視聴した高校生は、入院中の副作用や退院直後の体力の低下などを理解した一方で、傍にいること、肯定した声掛けの大切さやを学んでいた。また教育学部生や院内学級の教員は、入院中から継続した支援の重要性を理解していた。			
研究の目的	本研究の目的は従来の大人のがんに加え子どものがんにも着目したがん教育プログラムを構築するために、**思春期のがんの子どもが周囲の生徒からの理解と協力が得られるような「がん教育」支援ツールを作成することである。** 本研究で、思春期のがんの子どもへの理解を推進するツールを作成し、一般化して活用できるようにすることは、「がん教育」を全国の高等学校に展開するためのサポートツールになると考えられ、がんの子どもへの理解をより充実させることができると考える。			
研究の 実施方法	【1 年目：令和2～3年度】 **1）「がん教育」の**現状と課題を明らかにした上で、思春期に罹患したがんの子どもへの理解を含めた**「がん教育」支援ツールを作成**する。 （1）「がん教育」の実態調査（岡山県内養護教諭30人） 内容：①授業実施の有無 ②授業内容 ③授業を行った職種 ④がん教育への要望 （2）「がん教育」支援ツールの作成（動画） 出演者：がんの子どもに関わったことがある医療者、がんの子ども、保護者 内容：がんの子どもに対して行った支援や治療、思いを話す。			

	子ども本人は、してもらった支援、してもらいたかった支援や闘病への思いを話す。 目的：生徒、教員、周囲の保護者が思春期の小児がんの病気や支援、治療を理解できる 【2 年目：令和 3~4 年度】 2）高校生、教育学部の学生、現職教員に対して動画の視聴を行い、アンケート調査結果から動画の修正を行う。
研究の成果	**1）小児がんに着目したがん教育支援ツール（動画）を作成した。**動画を視聴した生徒、教員、周囲の保護者が小児がんの病気や支援、治療を理解できることを目的に、**小児がん経験者の小学生・中学生・高校生・大学生の 4 名と主治医、保護者が出演した。**内容は、子ども本人は、闘病への思いやしてもらった支援、してもらいたかった支援を話した。また、主治医や保護者は、がんの子どもに対して行った支援や治療、思いを話した。動画は、筆者が作成している「がんの子ども復学支援チャンネル」に YouTube としてアップした。 https://www.youtube.com/watch?v=zQuil-cBOcQ 2）高等学校、教育学部の学生、現職教員に対してプレゼンテーション試行および修正 高校生、教育学部養護教諭課程の学生を対象に、動画を視聴した後に、アンケート調査を行った。動画を視聴した高校生は、入院中の副作用や退院直後の体力低下などを理解した一方で、傍にいること、肯定した声掛けの大切さやを学んでいた。また教育学部生や院内学級の教員は、入院中から継続した支援の重要性を理解していた。アンケート結果から、クールやクリーンルームなど理解が難しかった単語が挙がっていたため、動画中に意味を提示した。また、短時間の授業で使用したいという希望があったため、short 版も作成して、YouTube にアップした。 https://www.youtube.com/watch?v=Gp-MQIZhnXc
研究の成果の公表状況 今後の公表予定について	研究成果は、小児がん看護学会、小児保健学会、育療学会等、医療者や教育者が所属している学会で発表する予定である。 また今後は、修正した動画を元に、高等学校における「がん教育」を実施していく。また現職教員、教育学部の学生に対しても、小児がんを含めた「がん教育」に関する研修会を開催し、学校内での「がん教育」体制作りができるように啓蒙していく予定である。

＊2022 年 11 月 30 日締切です。必要事項を入力のうえ Word ファイルをメールにてご提出ください。